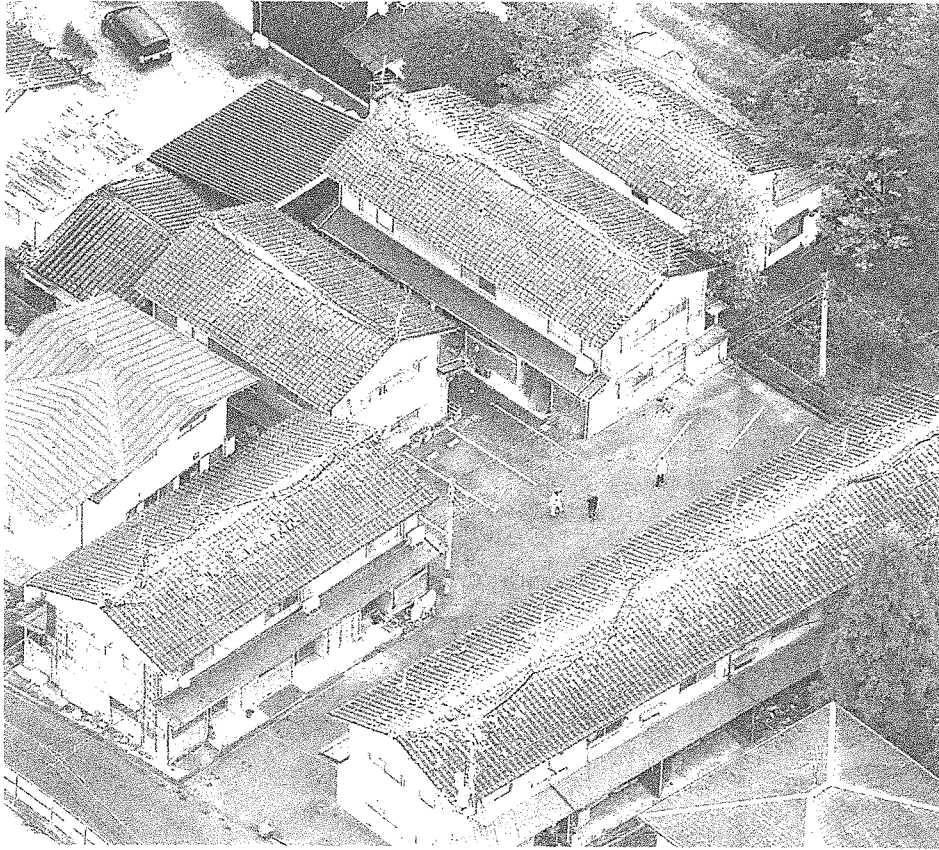


# 読賣新聞

2016年(平成28年)

10月22日 土曜日



地震で屋根瓦が落ちた建物（21日午後4時31分、鳥取県倉吉市で、本社ヘリから）＝大久保忠司撮影

## 鳥取震度6弱

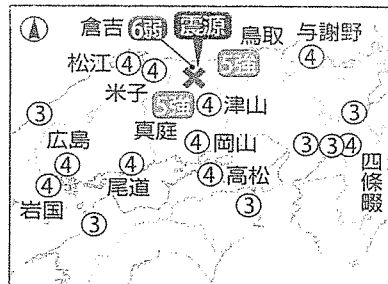
### M6.6、16人けが

21日午後2時7分頃、鳥取県中部を震源とする地震があり、同県倉吉市や湯梨浜町、北栄町で震度6弱を観測した。気象庁によると、震源の深さは11キロ、地震の規模を示すマグニチュード(M)は6.6と推定される。

関東から九州の広い範囲で揺れを観測し、鳥取県ではその後も、21日午後10時までに震度1〜4の地震が

計91回に上った。記者会見した同庁の青木元・地震津波監視課長は「今後1週間程度、震度6弱程度の地震に注意してほしい」と呼びかけた。

読売新聞のまとめでは、鳥取県8人、岡山など4府県8人の計16人が負傷。鳥取県によると、午後6時現在、同県内の52棟の損壊を確認した。倉吉市では同8時10分現在、計1842人



各地の主な震度が自主避難した。

中国電力によると、震度4を記録した松江市にある島根原発1、2号機(運転停止中)と、建設中の3号機のプラントに異常は確認されなかった。  
 △関連記事4・8・35面▽

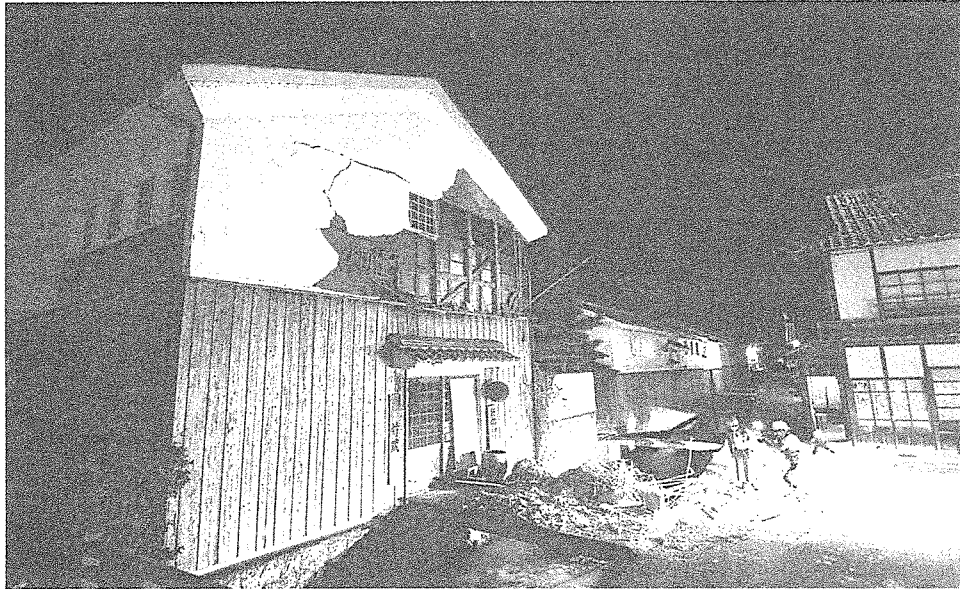
# 「経験ない、揺れ」

鳥取震度6弱

## 避難者「家が潰れるかと」

鳥取県中部を震源とする地震で、中国地方は21日午後、激しい揺れに襲われた。震度6弱を記録した同県倉吉市では、割れたガラスが散乱して市庁舎が使用不能に。家屋も壊れるなど、住民生活に大きな影響が及んだ。夜になっても断続的に地震があり、小学校などに避難した住民らは不安な表情を浮かべた。

〈本文記事1面〉



地震で壁が崩落した「白壁土蔵群」の建物（21日午後7時33分、鳥取県倉吉市）＝菊政哲也撮影

### ■庁舎使えず

4階建ての倉吉市役所では地震の後、各階で窓ガラスが割れて散らばった。職員が確保できない恐れがあるとして、約2時間離れた県中部総合事務所へ災害対策本部を設置した。市職員が市庁舎を調べたところ、倒壊の恐れはないという、週明けにも業務を再開したいとしている。

片付け作業をしていた税務課長の谷口剛さん（47）は、「庁舎内でガラスがバリバリと割れる音と悲鳴が響き、5〜10秒の揺れはとても長く感じた。電気はほとんどなく復旧したが、いまだに起動しないパソコンもある」と話した。

### ■波の上のよう

倉吉市越中町の建築板金



避難所に身を寄せる人たち（21日夜、鳥取県倉吉市の河北小で）

工、太田勝美さん（74）は、自宅近くの工場で床に座って鉄板を切断中、激しい横揺れに見舞われた。「ゴーツと地鳴りがしたかと思うと、大きく揺さぶられ、船の上で波に揺られるような感じがした」といっている。立ち上がることもできず、四つんばいで踏ん張った。自宅に戻ると妻は無事だったが、内壁がはがれ落ちていた。「人生で経験したことがない揺れだった。」

夕方になっても揺れが続いていて、身の危険を感じる」と不安そうに語った。

同市立西中学校では、教室の棚からテレビが落ち、頭に当たった2年生の男子生徒が軽傷を負った。小学校などは避難所となり、多くの住民が集まった。同市立北上条小の体育館に避難した無職細川永寿さん（78）は「（自宅は）古い家なので潰れるかと思った。体育館にいた方が安心。早く揺れが収まってほしい」と心配そうに話した。

### ■四国でも被害

震源に近く、一部で震度

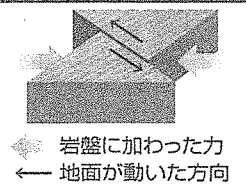
5強を記録した岡山県でも人が出た。岡山市の自宅で机の下に避難しようとした70歳代女性は、転倒して大腿骨折の重傷。美作市の小学校でも、1年生の男児が机の下に隠れる際に角に顔をぶつけ、目の上を

## 「熊本」と同じ直下型 未知の断層か

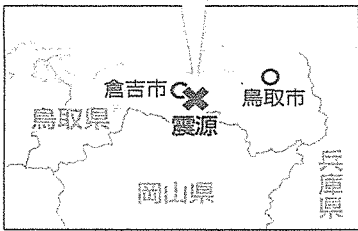
鳥取県中部で21日に発生したマグニチュード（M）6.6の地震は、断層が水平方向にずれる「横ずれ断層型」と呼ばれるタイプだった。今年4月の熊本地震（M7.3）と同じ直下型で、震源の深さは11キロと浅く、直上にあたる地域では強い揺れに見舞われた。気象庁によれば、今回の地震は知られていない断層で起こった可能性が高い。今回の震源近くでは、2000年の鳥取県西部地震（M7.3）など、既知の活断層以外の場所でも活発な地震活動が起きている。

### 鳥取県中部の地震のメカニズム

岩盤が水平方向にずれる「横ずれ断層型」



岩盤に加わった力 ← 地面が動いた方向



また、防災科学技術研究所（茨城県）によると、鳥取県倉吉市では瞬間的な揺れの強さを示す加速度が1.494g（ガルは加速度の単位）を記録し、4月16日の熊本地震の本震（最大1.362g）を上回った。ただ、同研究所の青井真・地震津波火山ネットワークセンター長は「木造家屋に被害を与える種類の揺れは、熊本地震よりも弱かったのでは」と話している。